Ⅲ-7　道徳科の指導を進めるために

(1) 障がいのある児童生徒への道徳科の指導

ア　障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する

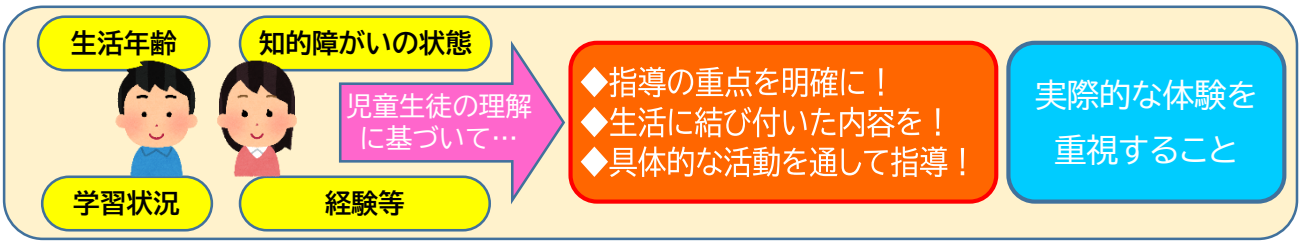
特別支援学級に在籍する児童生徒の中には、障がいがあるということで、自己の生き方について悩んだり、自信を失ったりして、消極的な態度になりがちな児童生徒も見られます。「特別の教科　道徳」を含め、日常の様々な機会を通して、児童生徒が自己の障がいについての認識を深め、自ら進んで学習上又は生活上の困難を克服し、強く生きようとする意欲を高めることにより、明るい生活態度や健全な人生観の育成を図ることが大切です。

イ　経験の拡充を図る

個々の障がいの状態によって様々な経験の不足が課題となることがあることから、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動の指導との関連を密にしながら、経験の拡充を図ることによって、豊かな道徳的心情を育て、広い視野に立って道徳性が養われるように指導することが必要です。

ウ　知的障がい者である児童生徒の指導について

個々の児童生徒の知的障がいの状態、生活年齢、学習状況や経験等に応じた指導の重点を明確にし、具体的な内容を設定することが重要です。知的障がいのある児童生徒の学習上の特性として、生活に結び付いた内容を具体的な活動を通して指導することが効果的であることから、児童生徒が経験したことを題材として取り扱ったり、ロールプレイを取り入れたりするなど、実際的な体験を重視することが必要です。



(2) 指導上の配慮について

「道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方についての考えを深めたりする学習を通じて道徳性を養う」という道徳科の特質は、障がいのある児童生徒においても同様です。指導に当たっては、児童生徒の障がいの状態に応じて工夫する必要があります。

	例１	例２	例３
困難さの状況	・教科書の教材で、文章や表現などを理解することが難しい。	・範読を聞きながら文を読む方法では、理解することが難しい。	・相手の気持ちを想像したり、理解したりすることが難しい。
指導の工夫	・別な言葉で言い換えたり、児童生徒が分かる表現を追記したりする。	・画像を見せながら語ったり、紙芝居やペープサートを活用したりして示す。	・他者の心情を理解するために、役割を交代して動作化や劇化を行う。

独立行政法人教職員支援機構「特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育（理論編）」

(3) 評価上の配慮について

◆　評価を行うに当たっては、困難さの状況ごとの配慮を踏まえるようにします。

◆　配慮を伴った指導を行った結果、相手の意見を取り入れつつ自分の考えを深めているかなど、児童生徒が多面的・多角的な見方へ発展させていたり、道徳的価値を自分のこととして捉えていたりしているかを丁寧に見取るようにします。

◆　評価資料を集めたり、集めた資料を検討したりするに当たっては、相手の気持ちを想像することが苦手であることや、望ましいと分かっていてもそのとおりにできないことがあるなど、一人一人の障がいによる学習上の困難さの状況をしっかり踏まえた上で行い、評価するようにします。

配慮を伴った指導

≪子供の姿≫
相手の意見を取り入れつつ、
自分の考えを深めているか

評価のポイント

多面的・多角的な見方へ発展させているか

道徳的価値を自分のこととして捉えているか

・評価資料を集める
・集めた資料を検討する

・障がいによる学習上の困難さを踏まえて評価する

≪参考資料≫

① 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）
※発達障がい等のある児童生徒に対する道徳科の指導（例）を掲載

② 北海道教育委員会　道徳教育Webページ
※各種道徳関連資料、研修教材等を掲載

①　②